



逆瀬川 あゆみだより

NO.217 2025.7
社会福祉法人
聖隷福祉事業団
逆瀬川あゆみ保育園
宝塚市逆瀬川 2-2-8
TEL0797-77-0415

梅雨が、6月中にあけてしまう・・・という今までにない状況の中、園での活動もいつも以上に工夫と楽しいと思えることが必要だと感じています。室内遊びの充実はもとより、廊下や玄関での運動遊び、地階すくすくルームの活用、粘土などの造形遊び、そして、どろんこ遊びに水遊び！そして、雨の日体験！雨の具合も考慮した上ですが、ひつじ組は、レインコートを着て、園庭に出てみようかと計画していますが、どうなることでしょうか。6月に一度、小雨の日にレインコートを着て、テラスを走った時の子どもの目の輝きと、いきいきとした表情に、私達大人もわくわくしたので、実現できたらよいと思っていますが、今年は思っている以上に暑さとの戦いになるかも知れませんが、測定もしっかり行いながら活動を考えていきますね。

ここ数年、急速に変化する世の中で、「教育もそれに応じて変わらなければいけない」とよく言われます。教育は何を変え、何を変えないのか？教育ジャーナリスト おおた としまささんのコラムから少しご紹介します。

「教育とは、学ぶ意欲を喚起すること」～小・中学生

教育とは、そもそも「時代によって変わらないものを教えること」であり、簡単にえられるものではないと思っています。例えば、機械などであれば、部品や構造を変えることで即座にアウトプットが変わることは大いにあるでしょう。しかし、教育は人間の生き方の一部ですから、機械の部品交換のように変えることは難しいのです。しかも、結果が出るまでに相当な時間が必要です。これからの時代は、英語だ、プログラミングだ・・・と言われますが、これはツールであって、重要な学びとは、「もっと学びたい」「こういう大人になりたい」という経験をどれだけできるかではないでしょうか。

一方、生きる力とは、変化する時代に合わせて何が必要かを自分で考えて判断・選択し、それを手に入れるための作戦を立て、実行に移す力です。つまり、スキルとはカードゲームにおける手札のようなもの。そして、「この場面ではどのカードをきるのがいいか」を考えることが生きる力と言えます。手札が多い方が有利ではありますが、必ずしも有効な手が打てるわけではありません。そして知識や思考力だけでなく、計画性、やりきる力、自立心も必要でしょう。こうした力は時代が変わっても変わりなく大切なものです。～上記のコラム内容は、まさにその通りではないでしょうか。教育＝教えるではなく、知ろうとする、学ぼうとする心の育ちが教育なのだと思います。

では、乳幼児期に大切にしたいものとは・・・

まわりの大人の愛情と関わり、そこから生じる温かい雰囲気のもとで、安心して生活を送ること、そして今、現在という時は、子どもにとって、繰り返すことのない、かけがえのないものです。今しかできないことを喜びと充実感をもって経験できるよう配慮したいものです。子どもの現在の充実した経験や喜びが、子どもの未来を豊かなものにすると信じて、「今を生きる」姿勢を子ども達と共に大切にしたいですね。

また、子どもは遊びの中で育っていきます。この楽しさを追い求める（追及）、より楽しいものへと向かう（追究）意欲が育つことを願いつつ、毎日楽しく過ごしていきたいと思っています。

辻田 紀子

花の日にお花の持ち寄りのご協力、ありがとうございました。

たくさんのお花に囲まれて、礼拝を守り、近隣の施設や日頃お世話になっている公共機関や施設に感謝の思いと共にお花を届けることができました。

「お花が育って、きれいな花を咲かせるには、何が必要かな？」とひつじぐみやうさぎぐみの子ども達に聞いてみると、「つち!」「おみず!」という言葉がかえってきました。きれいなお花をみながら各クラスで礼拝を守りました。

ひよこぐみとりすぐみはきれいなお花をみながら笑顔になる姿や、「きれいね～」と言うと、「ね～!」とまねっこする姿もありました。可愛らしい姿でした。みんなで神様の恵みに感謝をしながらお祈りをしました。

7月の予定

1日 プール開き
25日 なつまつりごっこ



夏季協力保育の申し込みについて

8月12日(火)～15日(金)

後日、協力保育の申し込みをコドモンのアンケートにて配信します。入力後、お申し込み内容に変更が出た場合は、担任までお知らせください。なお、協力保育期間外で、お休み（職場の夏季休暇など）をされる場合も、事前にお知らせいただくと助かります。よろしくお願いします。



お誕生日おめでとう



7名のおともだち

～ すくすくと大きくなってね ～

渴かない水



「わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。」(ヨハネ4：14)

宝塚栄光教会牧師 岩間 洋

サマリヤのスカルという町の井戸に水を汲みに来た女性に、キリストは一杯の水を所望されました。彼女が訝しげにしていると、キリストは、“わたしが誰かを知っていたら、自分からわたしに渴かない水を求めたろう”と言われました。“渴かない水”という言葉が彼女の心を捕らえました。その時キリストが言われたのが上掲の御言葉です。

どんなに名水と言われる水でも、飲んでしばらくすると、また喉が渴きます。しかし、キリストが与えてくださる水は、いつまでも渴くことがありません。その水とは、キリストの十字架を信じることによって与えられる、罪の赦しという魂の救いのことです。この救いをいただいたら、内に泉が出来て、喜びと平安と希望の水が絶えず湧き出ます。自分が喜びと平安と希望に満ちるだけでなく、周りの人々にもそうしたものを分け与えていくことができるのです。そのような人生を送りたいです